

新型コロナウイルス感染症による がん検診への影響について

県内市町村がん検診実施状況の把握と新型コロナウイルス感染症によるがん検診への影響に関するアンケートを行った。

- ① がん検診の実施状況について（令和4年9月把握）
- ・ 個別検診、集団検診とも令和2年度は延期や中止があり、特に集団検診でその割合が高かった。
 - ・ また、乳・子宮がん検診に比べると、胃・肺・大腸がん検診の方が、延期や中止の割合が高かった。
 - ・ 令和3年度・令和4年度と経過するに伴い、新型コロナウイルス感染症により影響を受けた（「延期」「中止」になった）がん検診も、解消されている（「計画どおり実施」の割合が増える）ことが確認できる。
- 《詳細は（別紙3）表面参照》

- ② アンケート調査について
＜ 調査概要 ＞

調査名	新型コロナウイルス感染症による がん検診への影響に関するアンケート
対象	奈良県内39市町村 がん検診担当課
時期	令和4年9月
方法	自記式アンケート
回答率	100%
項目	(1) 新型コロナウイルス感染症によるがん検診運営上の 影響の有無とその内容 (2) 住民のがん検診受診控えの有無とその対応

＜ 調査結果 ＞

- ◆ 新型コロナウイルス感染症の拡大により9割近くの市町村においてがん検診の運営に影響があり、その内容は主に「感染予防対策」「検診の中止や延期の対応」「人員配置や会場設営」「関係機関との調整」「住民への周知啓発」であった。
 - ◆ 約7割の市町村でがん検診への受診控えがあった。
このうち、集団検診のみ受診者数が減少した割合が3割を占め、集団検診での影響が大きかった。
市町村での受診控えへの対応策として、「検診は不要不急の外出にあたらぬ旨の啓発」「検診対象者への受診勧奨」「集団検診充足時の個別検診への受診勧奨」等が実施されていた。
 - ◆ 感染予防対策を講じたがん検診の運営や、検診実施医療機関との調整、人員配置、住民への周知など様々な課題に対し臨機応変に対応されていた。
- 《詳細は（別紙3）裏面参照》